

推薦入試

合格体験記

試験当日の流れ

- 09:30 ~ 10:10 入室
- 10:10 ~ 10:30 本人確認、注意事項のアナウンス
- 10:30 ~ 12:00 小論文
- 12:00 ~ 13:10 昼休み
- 13:10 ~ 13:30 本人確認、注意事項のアナウンス
- 13:30 ~ 面接

受験生1人に面接官2人、1人30～40分くらいと決まっているようでした。何人ずつ呼ばれるか、どこの部屋に通されるかはその時が来るまでわからずドキドキしました。番号の早い人は14時くらいに帰りましたが番号の遅い人は何時間か待つ必要があったようです。

推薦入試対策

小論文については、私が受験した法学部の過去問は大学公式で公開されていないので、慶應法学部などの小論文で代用しました。問題の形式という面ではあまり参考になりませんが、法学に関連した文章をもとに、ある程度の長さの小論文を書く練習にはなります。本番の問題文を見ても法学の専門的知識はあまり必要ないという印象を受けました。次に面接について、面接自体の練習よりも自己推薦書の作り込みが重要だと思います。本番で問われた質問はほぼ全てこの自己推薦書をもとにしています。そのためじっくり作り込んで、煮詰めておくことが大事です。推薦入試の受験を考えている人は夏ごろから書き始めると余裕ができると思います。専門知識も基本的に聞いてはいけないという暗黙の了解があるように感じましたが、私のように自己推薦書で匂わせると聞かれてしまうので、書く場合は細かく聞かれる想定をしましょう。面接自体の練習は学校の先生などに頼んで4回ほどやりました。私の本番は特に圧迫面接ではなかったのですが、圧迫面接の場合もあるようなので、練習の段階で自分の論理の抜けを相手に詰められる経験をしておくとうまいと思います。

メリットは？

自分の過去、現在、未来と真剣に向き合えます。スピード採点&合格発表!さらに英語資格試験で一定水準を超えて出願していれば入学後特別な英語のクラスに入れます。

苦労したことは？

共通テストと推薦の二次試験後のモチベーション維持です。一次選抜の合格点が不明確なため共通テストでは高得点が求められます。二次試験では面接と小論文の評価の見当がつかず前期の勉強に集中できませんでした。